

令和7年度第1回米子市まちづくり活動支援交付金審査委員会 議事録（概要）

○開催日時 令和7年5月27日（火） 13時30分から15時30分まで

○開催場所 米子市役所本庁舎2階 201会議室

【各申請団体プレゼンテーション概要】

申請団体1

ハーモニカ・フォーラム米子

事業名

山陰ハーモニ祭 in 米子 2025

事業概要

ハーモニカ愛好家による1年に1回の発表コンサートとプロ（カルテット「響」）による演奏にて、ハーモニカの更なる振興を図りたい。

《発表内容》

- ・2015年から毎年1回、ハーモニカの発表会を開催しており、中国5県から愛好家を集めて実施している。
- ・新型コロナウイルスの影響により、観客数が大幅に減少した。
- ・例年は発表会終了後にプロ奏者によるコンサートを行っていたが、今年はより盛り上げを図るため、カルテットを招いての開催を計画している。
- ・カルテットには多様な奏法があり、非常に魅力的な演奏が期待できる（YouTubeにて紹介）。
- ・最近、障がい者施設においても演奏グループによる活動が実現し、ハーモニカに触れ合う機会を作れたことは大変嬉しく、もっと広めていきたいと思っている。

《質疑応答》

- ・グループの年代層について？

⇒主に71～75歳が中心であり、高齢化が進んでいるが、現在は若年層の参加促進にも力を入れている。

- ・若年層への勧誘状況について

⇒前年度は幼稚園などに働きかけを行った。コンサートの誘致もしていたが、あいにく開催日が「がいな祭」と重なったこともあり、勧誘していた方々の来場には至らなかった。

- ・対象経費について（報酬金・宿泊費・交通費）

⇒東京からカルテットを呼ぶ予定である。呼んだ場合、報酬の目安としては50万円となっている。ここについては、お願いをすることで、報酬を40万円にしてもらうよう交渉する予定。

- ・なぜ20万円の補助金を申請したのか？

⇒通常はグループ内で費用を割り勘しているが、今回は特に資金が必要となるため、より大きな補助をいただくと大変助かると考え、申請に至った。

グループによる演奏は無料で行う予定だが、カルテットの演奏については初の試みとして、1,800円のチケット制を導入予定である。ただし、どの程度チケットが売れるかは不透明であるため、補助金の支援があると大変心強い。

申請団体 2

米子がいな万灯振興会

事業名

米子がいな万灯 40 周年記念行事

事業概要

米子がいな万灯の講演やイベントを通じて、地元の伝統芸能として定着を図り、地域活性化に繋げる。

《発表内容》

- ・ 今年「米子がいな万灯」が 40 周年を迎える節目の年であり、例年以上に盛り上げていきたいと考えている。しかし現状として、コロナ禍以前には 10 チームほどあった子ども万灯の参加チームが、現在では 6 チームにまで減少しており、辞めてしまったチームの再始動を目指しているが、一度途絶えてしまうと再開は容易ではない。これまで、万灯では小学校高学年の子どもたちが下の学年を指導し、継続的にチームを育てる仕組みがあったが、コロナの影響でその流れが途絶えてしまった。そのため、子ども万灯の育成が大きな課題となっている。
- ・ 40 周年の記念行事を機に、記念式典とあわせて子ども万灯の育成に力を入れていきたいと考えており、将来の 50 周年、100 周年へとつなげていくためにも、若い世代の育成は不可欠となる。その一環として、体験万灯などの企画を実施し、より多くの子どもたちに「がいな万灯」への関心を持ってもらえるようにしたい。今回の申請は、そうした取り組みの一助とするために行った。

《質疑応答》

- ・ こども万灯というと、五千石のように地域ごとに点在している印象があるが、区分はどのようなになっているか？
⇒ 基本的には小学校単位で構成されている。現在、活動が継続しているのは「五千石」「淀江」「啓成」の 3 校で、今年からは「尚徳」が復活する予定である。
- ・ 計画にある実施場所について、「駅前広場」「米子駐屯地」とあるが、それぞれどのような内容か？
⇒ 「駅前広場（だんだん広場）」では、万灯体験スペースを設け、広く一般の方々に体験していただけるイベントとする予定であり、がいな万灯への関心を高めることを目的としている。「米子駐屯地」では、自衛隊万灯の皆様のご協力を得て、宿泊を伴う万灯体験イベントを実施する。万灯体験だけでなく、自衛隊の活動にも触れられる、教育的な内容を含んだ企画としたいと考えている。
- ・ 米子での伝統芸能として万灯を継承していくことは非常に意義のある取り組みである。応援したい。一方で、収支計画を見ると、記念式典において「会費 5,000 円」に対して「食事代 9,000 円」となっている。この部分については交付金対象外であるがどのような考えか？
⇒ ご指摘の通り、用途に注意し、事業報告にあたっては厳格に行っていく。

申請団体 3

米子市立福生中学校保護者と先生の会

事業名

福生地区防災教育プロジェクト

事業概要

中学校区の生徒・保護者を対象にした防災キャンプを行い、災害発生時に中学生が地域のために果たす役割を考える。

《発表内容》

- ・福生中学校 PTA は、家庭・学校・地域の連携を重視し、生徒の教育支援と安全な地域づくりに取り組んでいる。本年度は、防災教育支援を目的にプロジェクトを企画し、交付金申請を行った。
- ・本企画は、地域防災をテーマにした探究学習の中で、生徒が主体的に地域と関わる学びを支援するものとする。防災力の向上は喫緊の課題であり、平時から地域と関わる中学生が有事に「共助」の担い手となる意義は大きい。
- ・中学生が地域住民と連携し、防災意識を高めながら実践的な知識・技能を習得することで、災害に強い地域づくりへの貢献を目指す。特に日中地域に多く滞在する中学生は、地域状況に詳しく、有事の際も頼れる存在となる。
- ・本プロジェクトでは、以下3点の実現を目指す。
 - 1, 地域との顔の見える関係を築き、有事の連携を円滑にする。
 - 2, 応急手当や初期消火、避難所運営支援の知識・技能を習得する。
 - 3, 地域ウォーキングを通じて災害リスクや要支援者を把握し、防災マップを作成して地域課題の発見と解決に貢献する。
- ・活動は、地域住民と生徒が共に学び、体験する参加型・学習型プログラムとし、夏から秋にかけて複数回実施する。まず、防災ワークショップを20名程度の生徒を対象に開催し、災害対応や情報伝達、SNS活用などの訓練を行う。
- ・続いて、50名規模で防災キャンプを実施し、防災ゲームや避難所運営のシミュレーションで応用力を育むとともに、初期消火・応急手当・炊き出し・避難所設営などの訓練を行う。段ボールベッドや新聞スリッパといった廃材利用の防災グッズづくりも取り入れる。
- ・もう一つの柱として、防災マップ作成を予定している。地域の危険箇所を巡るウォーキングとグループワークでマップを作成し、学校広報誌などで地域に発信する。
- ・運営はPTA執行部が主導し、コミュニティスクール、自治会、自主防災組織などと連携し、ボランティアの協力も得て進める。経費は行政の補助金を基本とし、不足分はPTA予算からの捻出も視野に入れ、独立会計で管理する。
- ・本事業を通じ、生徒が地域防災活動に主体的に関わり、災害に強いまちづくりに貢献できるよう支援していく。

《質疑応答》

- ・対象者について

⇒20名、50名の人数はともに生徒のみの数であり、参加者の学年やクラスに制限はなく、活動に賛同される生徒の自由参加を想定している。

- ・昨年度の防災ゲームから発展した企画か？

⇒昨年度の防災ゲームは非常に好評であった。今回は地域を巻き込んだ取り組みへと発展させ、生徒の考えを地域に共有することを目指している。防災ゲームが注目を集めましたが、その他にも素晴らしいポスター発表などもあった。本企画を通じて、これらの考えを広く共有し、防災意識の向上に繋げていきたい。

- ・昨年の活動は継続しているか？

⇒継続している。中学校では「防災」「観光」「まちづくり」の3つのテーマで学習を進めており、学年ごとにテーマを区切って継続的に取り組んでいる。

- ・防災キャンプ等のイベントに関して傷害保険加入の推奨があったが、対応は？

⇒PTAの団体保険を適用する予定。場合によっては、PTA予算から追加で保険加入手続きを行う考え。

・防災アドバイザーの報酬について

⇒地域の有識者を想定しており、準備などに使用いただくことを前提に現在の金額を計上している。

申請団体 4

ひがしやマルシェ実行委員会

事業名

第3回ひがしやマルシェ

事業概要

中学生がマルシェを企画・運営し、地域を盛り上げる。また、中学生が企画・運営するプロセスを記録し、県内の誰でも“地域おこし”ができるモデル事業を創出することを目的とする。

マルシェには地域の企業やお店を中心に集めて開催する。

《発表内容》

- ・ひがしやマルシェ実行委員会は、地域の魅力や人々の温かさを広く伝え、地域のつながりを広げることを目的に活動している。活動の起点は中学校文化祭での第1回マルシェであり、地域の新たな魅力の発見につながった。この取り組みは「鳥取SDGsアワード」でグランプリを受賞し、平井知事からは「持続可能な活動を」と激励の言葉を受けた。令和6年8月には第2回を東山中学校横の広場で開催し、大きな成果を得た。
- ・中学生ならではの若い視点と発信力、そして「応援したくなる」地域づくりが活動の強みであり、今後は鳥取県全体への展開を目指す。
- ・第2回マルシェは令和6年8月11日、11時から16時に開催。16店舗が出店し、出店料は無料。買い物ごとにシールを配布するラリーを実施し、3枚で抽選参加が可能とした。景品に地域商品券を用意し、イベント終了後も地域の活性化につながる仕組みとした。
- ・初年度は「とっとりユースアイデアオーディション」応募を通じ、県から30万円の補助金を獲得。商工会議所青年部の協力でノウハウを学び、米子市や教育委員会からも後援を得た。チラシやうちわの制作、メディア出演、情報誌・ビジョン広告など多面的に広報を行った。
- ・当日は実行委員、生徒ボランティア、PTA、教職員が協力して運営。来場者は1,000人を超え、シールラリーも盛況であった。アンケートでは来場者の約90%が「地域や店舗とのつながりが深まった」、約99%が「地域活性化につながる」と回答。出店者の75%が「来年も出店したい」と答え、全員が出店のメリットを実感していた。
- ・これらから、ひがしやマルシェは多世代の来場を通じて地域と店舗のつながりを深め、地域活性化に寄与していることが明らかとなった。
- ・今年度は第3回を2025年9月23日に開催予定。東山中学校横の広場を引き続き使用し、来場者・出店数の増加、シールラリーの継続、広域的なボランティアの参加を図る。なお、出店料無料の継続により、資金確保が課題となっており、交付金による支援を申請している。

《質疑応答》

・地域の範囲は？

⇒これまでは東山中学校区を中心に地域活性化を図っていたため、出店も東山エリアがメインだったが、次回は他校区からの出店も検討している。

・出店料を無料にした理由は？出店者は一般事業者を想定している？今後の出店料については検討すべきか？

⇒第1回は文化祭での開催のため出店料は不要。第2回は鳥取県のユースアイデアオーディションの資金を活用したため、出店料をもらわなかった。今回まで無料にする理由として、今後の出店者基盤を築く目的がある。交付金等に頼り続けるのは望ましくないため、来年度以降は協力者から出店料をいただく方向で検討している。

- ・今後の展開として、鳥取県全体のイメージに広げていく考えはあるか？「ひがしやま×マルシェ」というブランドが形成されているため、その軸を大切にしつつ発展させてほしい。

⇒中学生がゼロから作り上げる取り組みは珍しいため、このモデルを他地域にも発信し、誰でも実践できるように広げたい。

- ・取り組みを広げる際、自分たちで広げるのか、それとも他地域の中学校等と連携しながら広めるのか？

⇒自分たちの活動を発信し、他校の生徒がそれを真似ることで広まっていくイメージ。

- ・ボランティアの募集について、一般ボランティアの募集はボランティア協議会でも協力することが可能である。

【審査結果】

◇審査結果

申請のあった4団体の事業をすべて「採用（交付金の交付）」と判定した。

◇交付金の交付に当たっての審査会からの付帯事項

(ハーモニカ・フォーラム米子)

- ・事業の実施にあたり、米子市文化ホールに相談するなどして、広報・PRの充実を図り、より多くの人に親んでもらう工夫をすること。

(米子がいな万灯振興会)

- ・記念式典を含んだ大きな事業となるが、まちづくり活動支援交付金の趣旨を鑑み、交付金の用途については、次世代の担い手育成や体験等、継承を目的として部分に限定したものとなるよう、会計上の区分を明確にしておくこと。

(米子市立福生中学校保護者と先生の会)

- ・特になし

(ひがしやマルシェ実行委員会)

- ・今後、事業を拡大・発展させていくことはもちろん良い取組であるが、その際、東山地区の名を冠したイベントであることを大切に、地元開催の良さが消えてしまわないよう留意してもらいたい。先進モデルとして、他地区にも波及させる方法をしっかりと模索されることを期待したい。